

すぐアヘる
かお♡

女体化ウイルスで女体化した
お兄ちゃんと、

ふたなり妹のアヘアヘな毎日

基本CG8枚 ストーリー80枚

流され
やすい♡

防御力
ゼロ♡



お兄ちゃん、
お前さんの体は
女体化ウイルスで
女体化したんだよ。
わかったあおねは
お前さんの体は
女体化したんだよ。
わかったあおねは
お前さんの体は
女体化したんだよ。



お兄ちゃん、
お前さんの体は
女体化ウイルスで
女体化したんだよ。
わかったあおねは
お前さんの体は
女体化したんだよ。
わかったあおねは
お前さんの体は
女体化したんだよ。



女体化

ア

ハ

顔

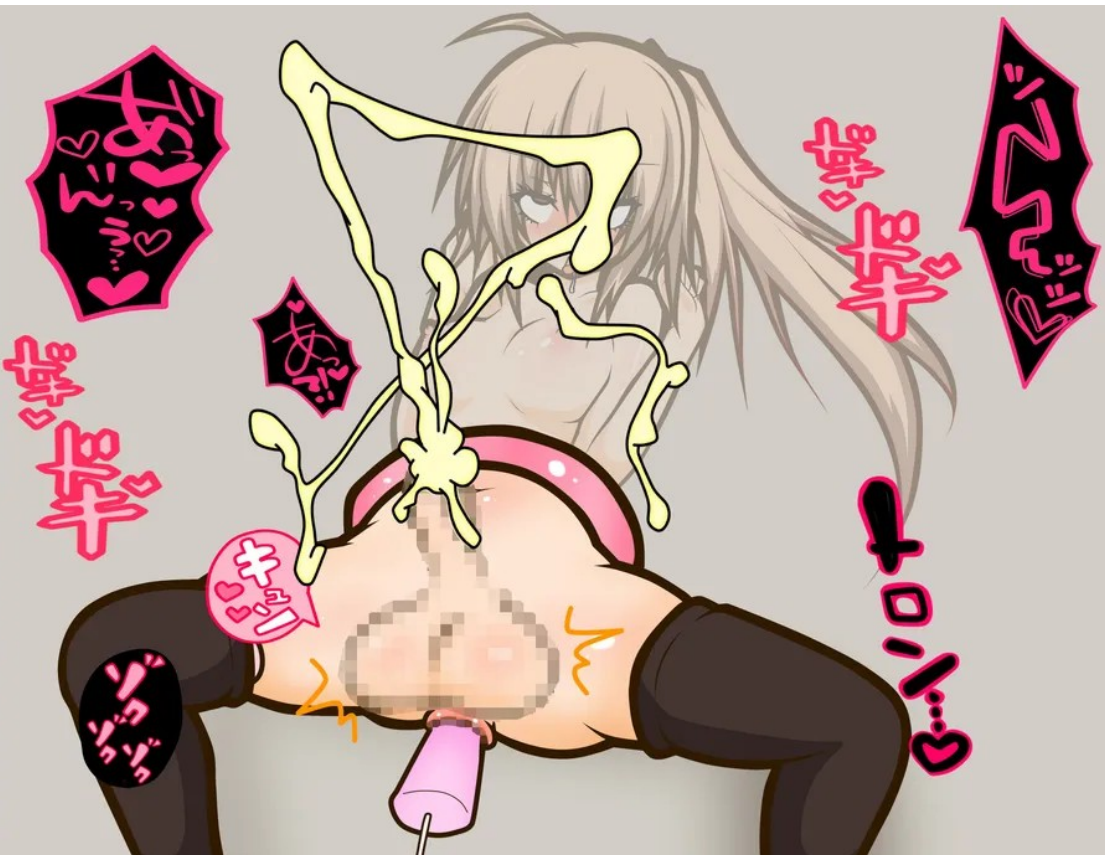


「ひあああ!？」
『それ私でも腰が抜けちゃうくらい気持ちいいから、頑張っつね。あっ、取ろうとしたら口聞かないから。さてカウントダウン5〜4〜3〜』



「まっまって、ヒナ……こんなのされたら……ボク。冗談……だよわ?」
『3〜2〜1〜』
「お願い、怖いよ……ゆるし……」
『ゼロあ!♡!』
カチッ

(んおおおおおおおおお！♡いくっ♡♡調教
済みずっしりメスキンタマ、簡単にワン
タッチでいけされりゅう♡♡んおおお)



「あはは、ホントにすぐイッチャう。ダメ
チンポだなぁ〜ほらほら、そんなんじや
もたないよ?」

「今日はヒナがキンタマ責めにされても簡
単に射精しないようにキンタマ鍛えてあげ
るんだから」

『兄貴、兄貴、いい加減、出てきてメシく
らい食べなよ?』
『何やってるか知らないけどさ……私だっ
て心配なんだよ!?!』



私の名前は【佐々木 陽菜(ササキ ヒナ)】
●6歳。この目の前の扉の向こう側にオタ
野郎【佐々木 有紀(ササキ アキ)】の妹で
ある。

兄貴はオタクではあったけど、少なくとも引きこもりのニートでは無かったはずだ……。
それに、カッコいいとは言えなかったけど、優しかったし……人様に顔向け出来ないのは、パソコンの秘蔵フォルダの中身くらいははずなのだ……♡♡♡



いや……でも……一番多いのが妹モノと言
うのは如何なものか……いや、嬉しいけど……♡

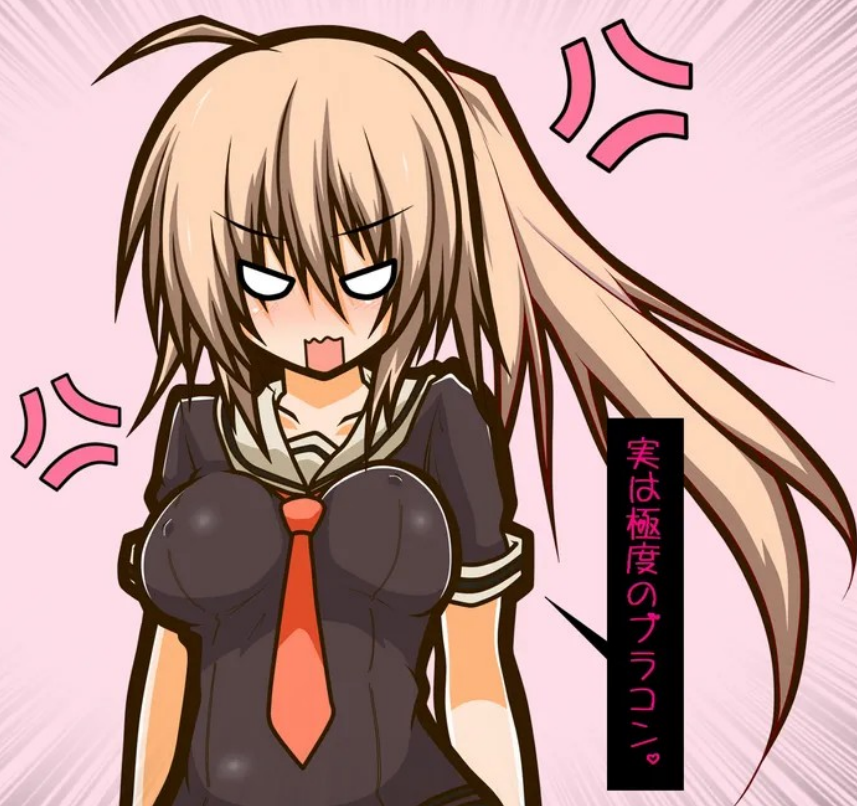
「ヒナには関係ないでしょ……ほって
お……」



中から、圧し殺した様な声でそんな言葉が
聞こえてくる。その言葉に私は……

『この私が心配してあげてるのに、な
んだその言い種はあぁ!?!』

実は極度のナラコレ。



『お兄ちゃんならお兄ちゃんらしく、妹の
下着盗んでハァハァするくらいの根性みせ
ろー!?! 誰のために普通に私の下着を見え
る場所に干してるとおもってるの
よ!?!?!?』

「ええええええ!?!?!?!?」

思い切り扉を蹴り開けた。
「あっ……………あわ……………ああ……………こっこれ
は……………」

!!?



『……………え?』

女体化ウイルス。
男にのみ感染し、どんなキモオタでも『美少女』へと変えてしまう、正体不明のてんでもウイルスである。



『なるほどねえ……女体化ウイルスってオ
タクとかの妄想じゃなかったんだ……』
『あのお兄ちゃんがこんなになっちゃうな
んて信じられないわね、微妙に』



「ボクもそう思ってたけど……三日くらい
前から……こうなって。お母さんに服はな
んてかしてもらったんだけど……」



「その……こんなの気持ち悪いよね？さめ
んね、ボクこんなので……学校でもヒナに
迷惑がからないように近寄らないでいたけ
で……こんなのバシちやったら……ヒナに
も迷惑……」

「痛っ♥♥♥?」

『ちよい黙る』
バシッ



「うん、これはこれで全然ありよね……♡♡♡
しろ、精神的に弱ってる今なら……♡♡♡う
ん、むしろ好機♡♡」
『私だってお兄ちゃん妹なんだよ？確
かにお兄ちゃんはパソコのフォルダいっ
ぱいに妹モノの同人誌め込む変態さんだけ
で……』

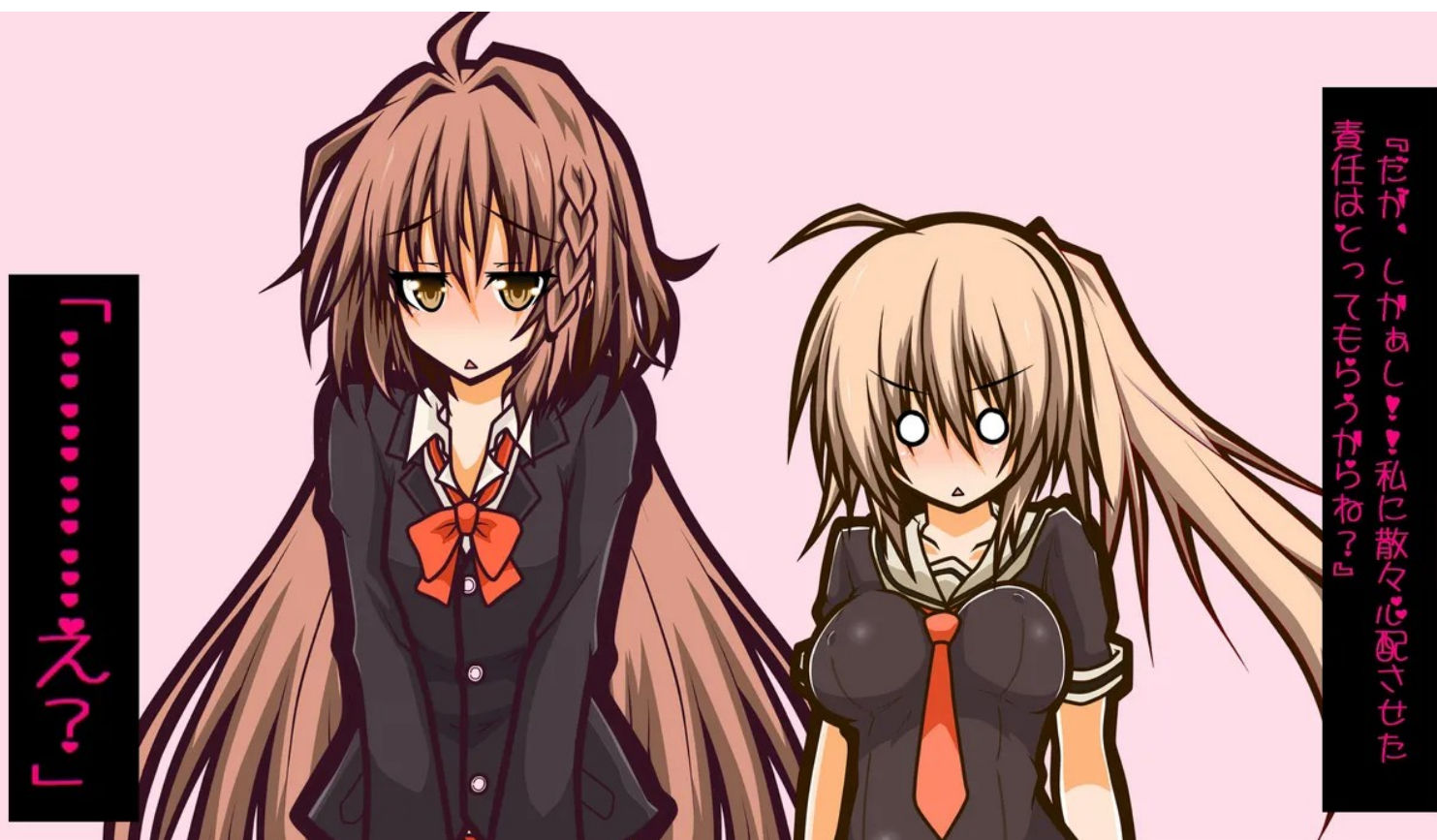


「ちよっ♡？なんで知って♡？」
『シヤアラップ♡』
『ソナナコトハ、ドーマイイノデス』
「なんで片言……♡♡？」

『てにかく！私はその様な事でお兄ちゃんを嫌いになったりしないのっ！お兄ちゃんなら私が変な病気で苦しんでたら私の事、嫌いになるの？』
「なっなる訳無いよ……」

『よし……だから安心しなさい。よしよし』
「うう……ありがとう」

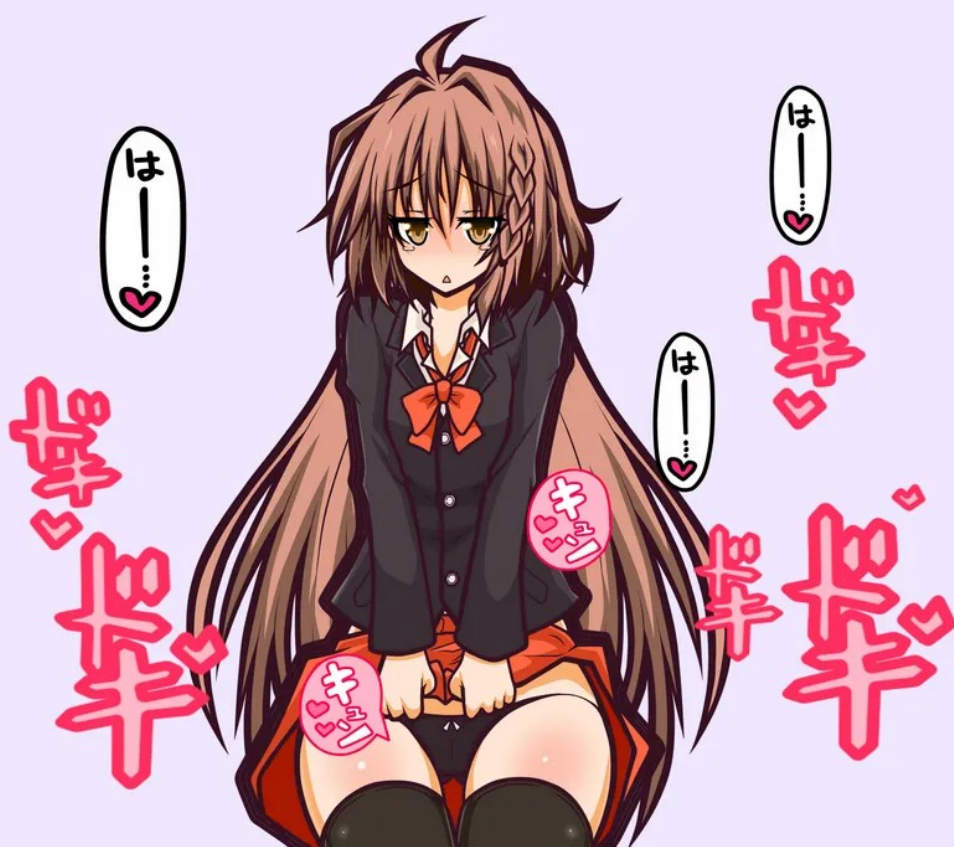




「……………え？」

『だが、しかあし♥私に散々心配させた責任はとってもらおうからね？』

『へえ〜可愛いパンツ履いてるんだあ？
なになに？こう言うのが好きだったの？
言ってくれば履いてあげたのにい。学校
中に言いふらすけど』



(既成事実のためになあ♡♡♡)
「ち、違うよ……これはお母さんが適当に
買ってきてくれて……それよりパンツ見え
ろなんて恥ずかしいよ。お願い見ないで
……」

『だーめっ♥♥女の子の服は色々面倒なんだから、ちゃんて履けてるかチェックするんだからね♥♥』

はー…♥

好き♥

はー…♥

好き♥



はー…♥

好き♥

『まあ、そっちはあーお母さんが美味しい所全部もってっちやっただみただけでっ』

『そ、それならもう……』

『まだだめ♥♥それに……』

『ちやあんと、そう言うときの為に教えて
おいてあげないで。お母さんに聞くわけに
もいがないでしょ?』



クチ
「ひあぁっ!?!ひっヒナ!?!そこは……
『ひあぁっ!?!だって、可愛い声〜。女
の子だって普通に性欲が溜まるんだよ?
お兄ちゃんだって、年頃な訳だし』

「でっても……そこ、汚い……」
『ソコじゃないでしょ？あ・ま・ん・こ。
あはは、エロゲみたいな台詞をリアルに使
う時がくるとは思わなかったわね。さあ言
うまで許してあげないから。ほ・ら、ほ・
らあ！』



「ひっぴあっ！？んひいい！？わっ
わかった、言うから、言いますが
らあ！』

「ボクのおまんこ、そんな乱暴に気持ちよ
くしないでっ♡♡♡んおおおお」



『はい、よく言えましたね。でも、あまり
に可愛い声だしちやう駄目なお兄ちゃんに
は、おまんこイっちゃうまで、妹の指まん
オナニーの刑です』
「そっそんなにや、話がちが……」

『動いたらだめ!動いたら、もう口聞い
てあげないから』
「そっそんなにや!?!んひっん
ひい!?!?なっ、なんかくる……!?!な
んかくりゆうう。こわい……!?!こわいよじ
ナアア……」



『大丈夫。ぎゅって抱き締めてあげてら
ら。だから……思う存分いっちやって
ね?』
「んひっ!?!?いっくう……!?!いっく
う……んおおおおおお!?!?」

『よしよし、良くできましたね。じゃあ、今度はこれで可愛がってあげるからね』
「そっ、それってロータ……」



『ピンホーン、さすがエロ同人御用達アイテム。あつ勿論、私のお気に入りなのだから威力は保証するよろ？』

「ひ……ヒナの……くっ」

『あはは、妹愛用のエツナオモチヤに興奮しちゃったの？すきあり！♥』

「ひあああ!？」
『それ私でも腰が抜けちゃうくらい気持ちいいから、頑張っつね。あっ、取ろうとしたら口聞かないから。さてカウントダウン5〜4〜3〜』



は——…♡
は——…♡
は——…♡
は——…♡

「まっまって、ヒナ………こんなのされたら……ボク。冗談………だよわ?」
『3〜2〜1〜』
「お願い、怖いよ………ゆるし………」
『ゼロあ!?!』
カチッ



「んひいいい！？おっおおお！？ん
ほおおおおおおお！？」
「おまんこおお！？おまんこが震え……ん
おおおおおおお！？」

『あはは、すごい。潮吹いちゃった〜それ凄いでしょ？たーっぷり楽しませてあげるからね』
「こっこめひえ……んおおおお」



「はっ、はひっ……はひい。もう無理……むりい」
『よしよし、これからも可愛がってあげるからね。お兄ちゃん』

お兄ちゃんが女の子になってしまったと発覚してから、はや数日。今日もお兄ちゃんを快楽漬けにして私無しでは居られない体質にすると言う……
妹として、至極真っ当な計画もちやくちやくと進行してきた所……その奇病は突如として私を襲ったのだった。

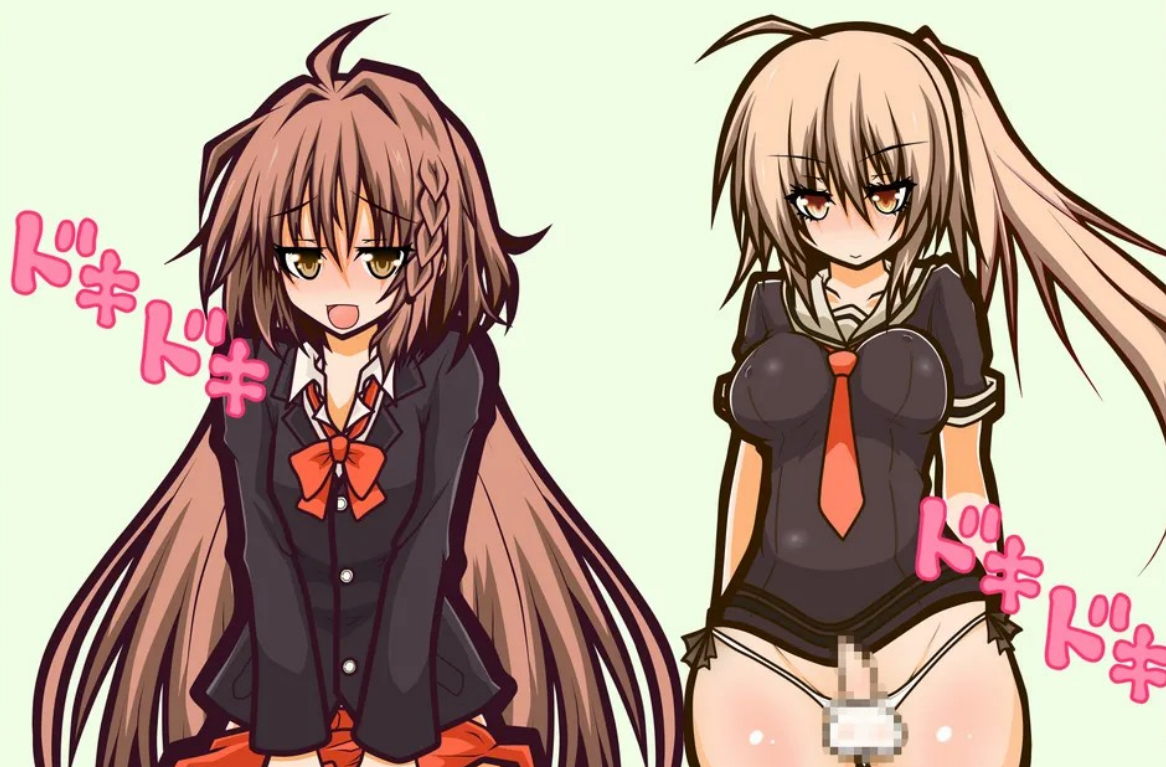


『なっ！！？？？なんじゃこりゃあああ！！？？』



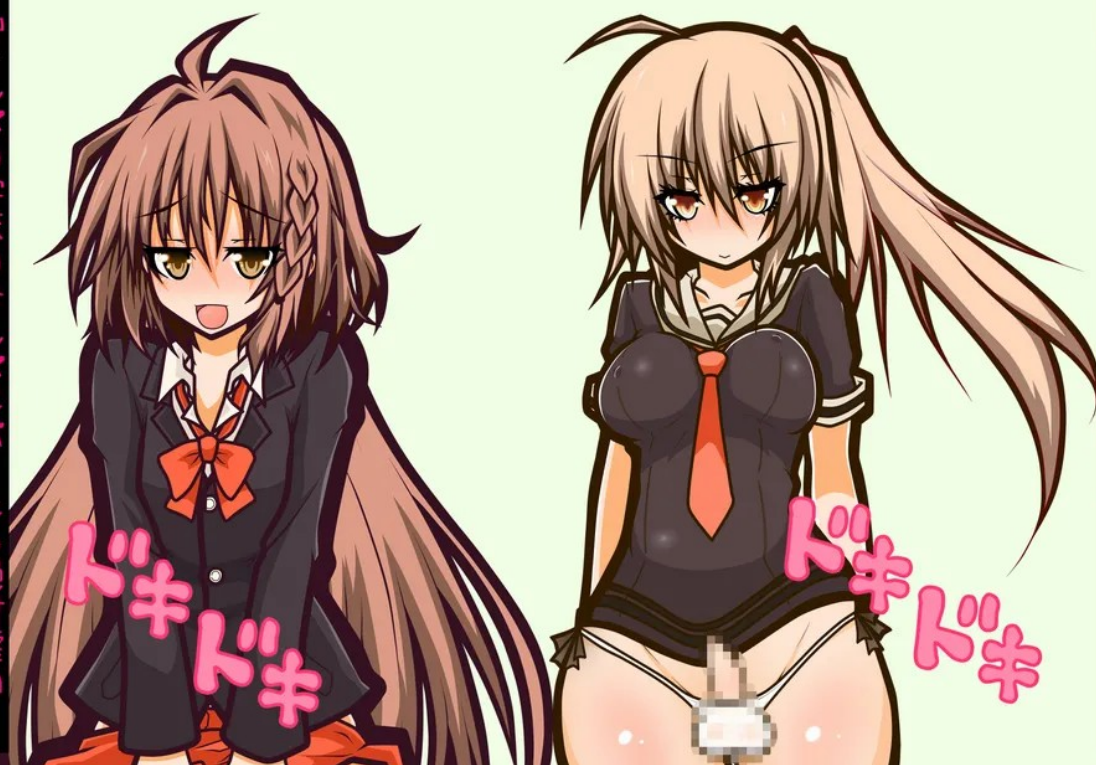
ふたなり化ウイルス
女の子をふたなり化してしまう以下略。
なお、普通のチンポよりも感度がよく、射精
量も多い。

「なんて言うか……兄妹だよわ」
『ほんて……嬉しいのが悲しいのが解らない・繋がり証明よね……まさか兄妹そうって訳の解らない奇病にかかるとは……』



『まあ……でも、お兄ちゃんの外女は私が貰うって決めてたし好都合かな』
「しよ……処女……？僕たちは兄妹なんだよ……？そんなことしたら……」

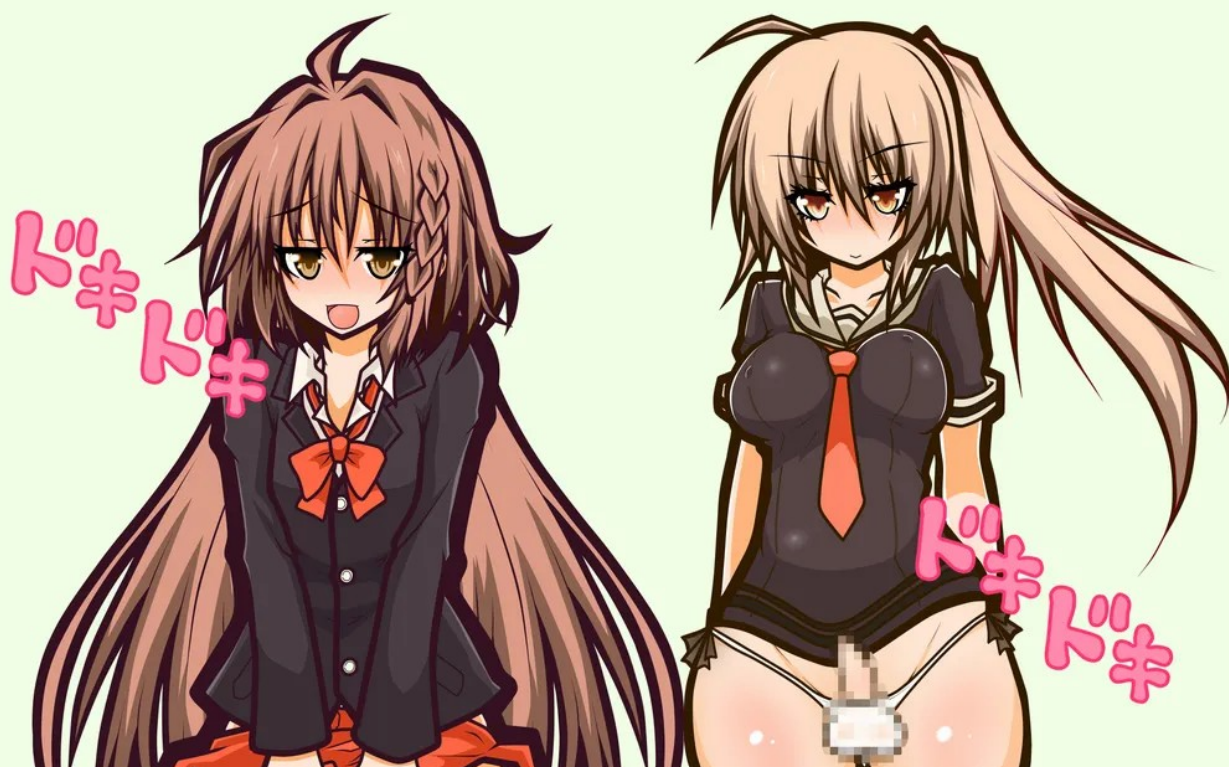
『じゃあ、お兄ちゃんはこのチンポの付いた妹をほっておくっていうの?』



『こんなの学校みんなにバシたら絶対虐められちゃうよ?性欲の処理の仕方もわからず、学校でうっかりおちんちんたてちゃって……』

『妹がエロ同人みたいに!?!エロ同人みたいがいい!?!な事になったらどうするの?』
「で……でも……」

『ちゃんてゴムならつけるから……それなら
良いでしょ？……だめ？』
「わっ……わかったよ……」



『それに、私……最初はお兄ちゃんがいい。
お兄ちゃんには私じゃいやなの？』

「なんか寒気が♥?」



(我が兄なからちよい……学校にこのまま放
りだしてたら、ほんとにクラスメイトからエ
ロ同人展開があったんじゃないかしら……そ
れはそれで見てみたかったわね)

『さっ お洋服ぜんぶ脱ぎ脱ぎしまちよう
わえ〜』

「う、うう恥ずかしい……なんでこの体勢
……」



『だって、お兄ちゃんは私の性欲処理の練習
台なんだから。ちやんとオナホみたいにして
てくれないで』



「オナホ……ボクが……ひでいよあ……」
『てかいつて、ちやあんとあまんこは濡れ濡れ
れのムしムしになっちやってるよ？お兄ちや
んって、ひよってして、マゾ？』
「ちっちが……」

『あつ、さめーん。お兄ちゃんが動くから処女も奪っちゃったあ。私も童貞卒業。お兄ちゃんも処女卒業おめでとー』



ズブツ!!
「んひよおお!!?」

「ひゃ……んひ……んおほお……?」
『ありや……シヨックで頭てんじやったん
だ?お漏らしまでして可愛い』



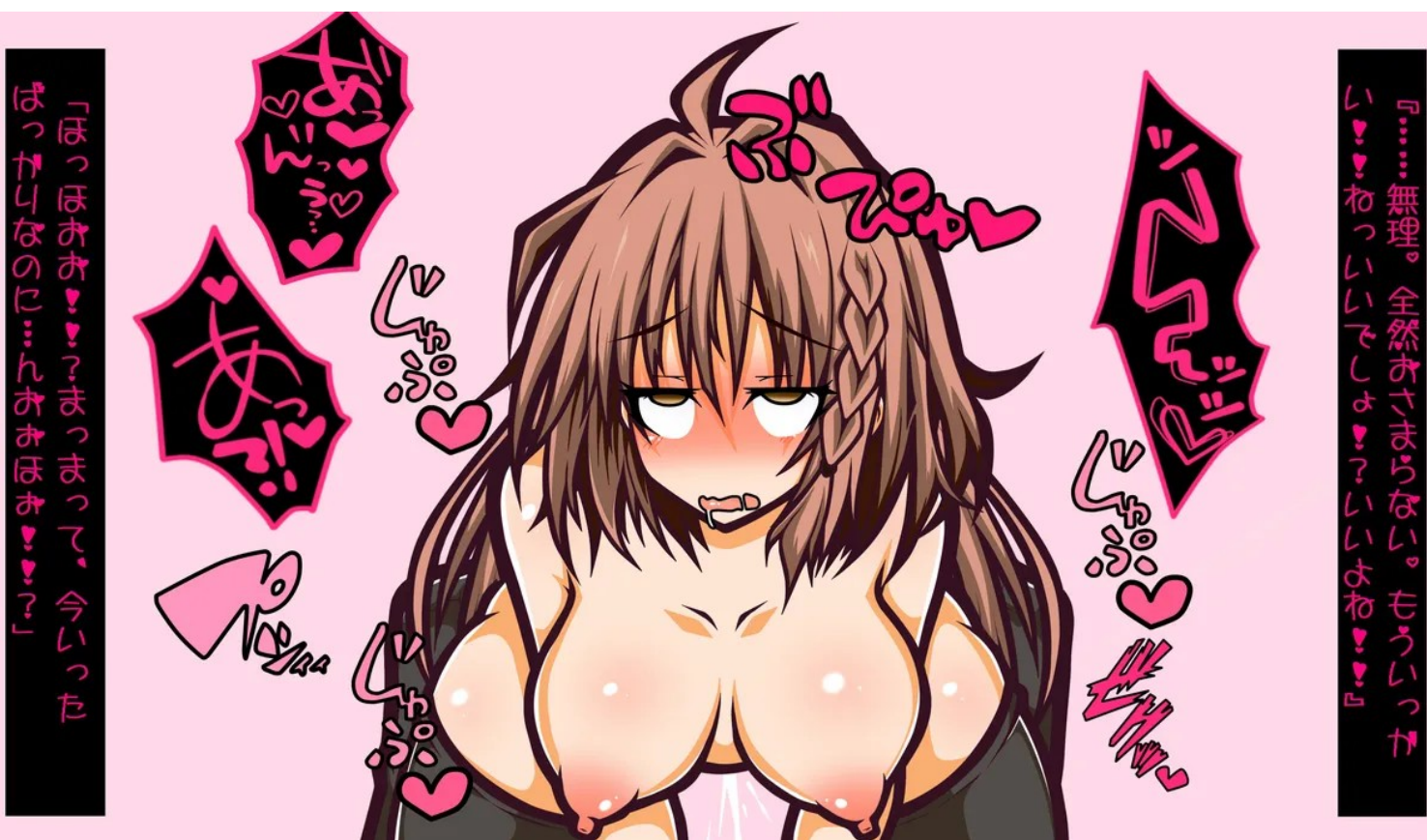
ソクソク
『おちんちんって、こんなに気持ち良かった
んだあ?じゃあ動くからねえ』

『一緒に行こっ……お兄ちゃんも一緒に
……♡♡いくっ……いくうう♡♡』
『あー……でてりゅう……でちゃってりゅう
……女の子なのに、お兄ちゃんのおまんこの
中で、おちんちんミルクでびゅでびゅし
ちやってりゅはお』



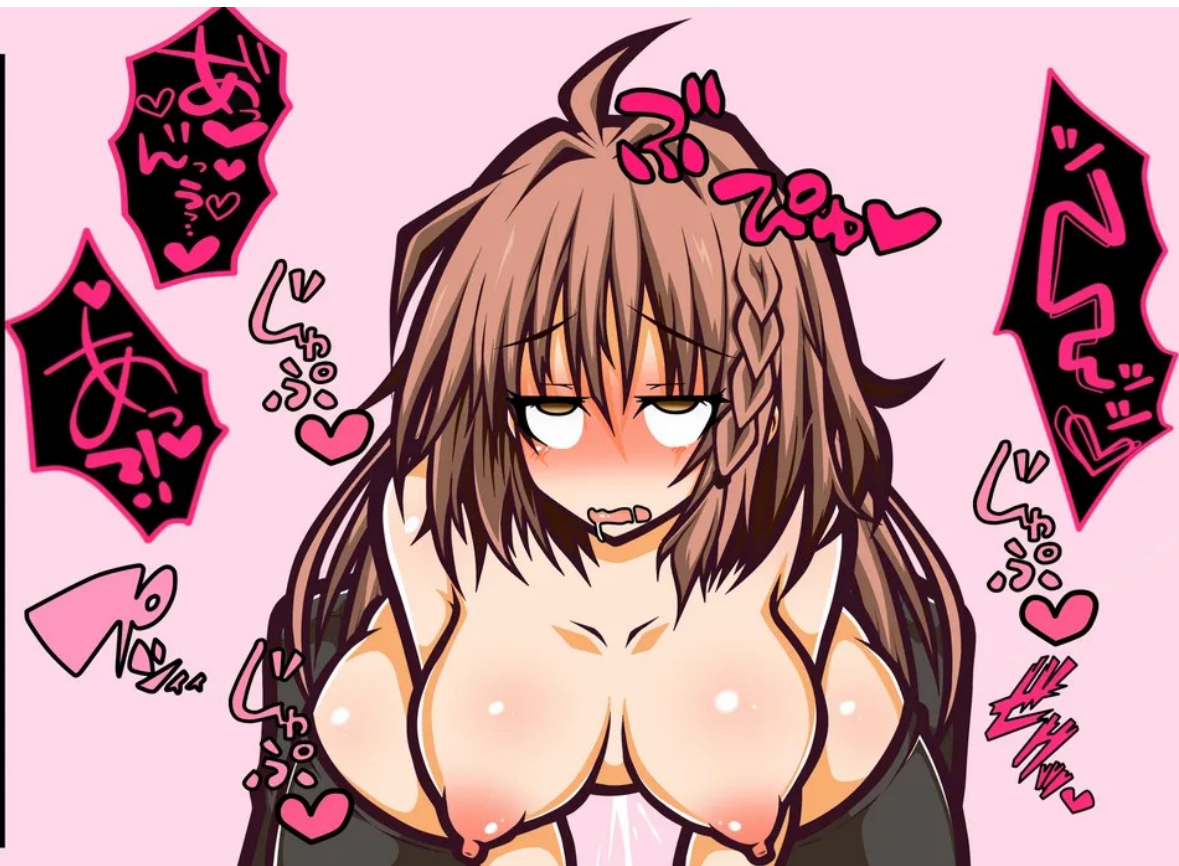
「いくっ……んおおおおおお♡♡」
「でってりゅう……中でゴム膨らんで……
はっ……はへ……終わった……？もう終
わっらあ？」

「ほっほお♡♡？まっまって、今いった
ばっかりなのに…んおおほお♡♡？」



『……無理。全然おさまらない。もういっかい♡♡わいいでしょ♡？いいよわ♡♡』

「いった！もういったから！もうゆりゆ
してええ。ふひい！？そ、そ奥！？んおお
おお、そこおちんちんでノックしにやい
でええ」



「おっ覚えちゃうかりやあ、おちんちんの気
持ちよさ、お前覚えちゃうかりや許し……ほ
ひはおおお」

3の分後



「はああはああ……もうたない……気持ち
良かったね、お兄ちゃん。これから、私専
用のオナホにしてあげるからね」
「んへええ……んへええ……おまんこ……七
ナに形にされちゃっ……おほおお……」

兄妹としての一線を越えたあの日から、私達
は次第にお互いの欲望を抑えられなくなり
……

最初は恥ずかしがってたお兄ちゃんも、次第
に私のおちんちんを……



『求めてくる筈なのよ♥♥そろそろ私の計画
では!♥!』
「ええ〜……」

『そこ！ええ、じゃない！可哀想なモノ
を見る目もない！』
「いやだって……普通に考えて、兄妹でっ
のはきって良くないし……」
『……わかった。お兄ちゃんが言うこと
言うなら私にだって考えがあるから』



「んぶっ♡♡？んぶううう♡♡？」
『ほらほらでう？えっちなワンちゃんになっ
た気分は？おまんこにローターまで入れて、
上と下のお口からエッチなよだれだらだら垂
らしちゃってる感想は』

『これから、本当にお兄ちゃんは私のモノな
んだって解らせてあげるから』
「んぶううう……んっ、そんな……」



『そんな声だしたって、結局私にこんな動け
なくなるまで好きにさせて、おまんこグシュ
グシュになる位期待しちやっただのは誤魔化
せないわよ?』
「うっうう、言わないでえ……」



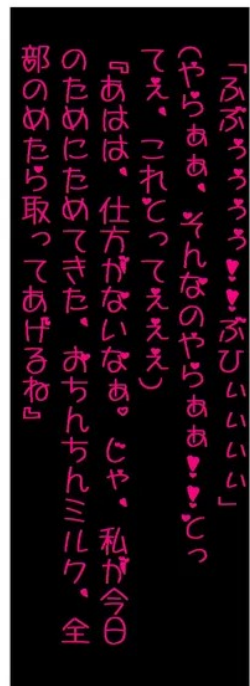
「そっそれ……アナルプラ」
「ぐふうう！？ぶふ、ぶ
ひいひい！？」

『ほらほらおまんこ、またヒクヒク反応し
ちゃってる。でもまだお預け。せっかくワ
ちゃんになったんだから、しっぽもつけない
てね？』

『あはは、ワンちゃんじゃなくて、豚さんになっちゃった。ちやあんで、媚薬ローションでめるめるにして、初めてでもすんなり入る様にしておいてあげたから』
「ふひっ！ふひひい！？」
(おしり！おしり！あちやいいい！？！)



『もう効いてきたんだ。安心してね、ただそのローション、副作用というか、効果がききすぎて』
『はじめてのアナルでも、おちんちん24時間受け入れオッケーのトロトロケツまんこに変えちゃうだけだから』



「ふぶぶううう！♡♡ふひひいひい」
（やらあゝ、そんなのやらあゝ♡♡♡てっ
てえ、これってえええ）
『あはは、仕方がないなあ。じゃ、私が今日の
のためにためてきた、おちんちんミルウ、全
部のめたら取ってあげるわ』



『ほらウーちゃんにみ似合いの餌バチにいれ
てあげたから』
「んふっ♡♡♡」
(「これ...飲むの...」)

『おしりのぬにや震え……んおおおお！？
わかったぬわかりましたぬ！？のぬましゆ、
のぬましゆかりやあぬ』
『じゃあ手伝ってあげるぬ』



『……………じっつて』
「んぶうちう！？！？ぶっぶひいひい！？？ぶ
ひいひい！？？」

「んぎょぎょぎょ……♥♥♥」
(きつきた……妹のおちんちんみるく……んぎょ……んぎょぎょぎょ)



(くっ 臭い……♥♥♥ 脳まで焼け……んぎょぎょ
お。 たったあけ……お
ほおおおおおおおおお)

『あは、よく飲めました。偉い偉い。さっ抜いてあげるね』



ズリユン
「んおおおおおおお♡♡? けっけつまんこめくれ...♡? おひよあみみ」

『あいや、遅かったかな？さ、お兄ちゃんは誰のものかわかった？私のものになれば、そのケツまんこもおまんこも、ぜーんぶ気持ちよくしてあげるからね』



「はっはひ...わがりまひたあゐ、ボクは妹専用のオナホ犬でしゅうう、ケツまんこもおまんこも.....」
「全部ヒナのモノでしゅ.....んおおおお」

『たまには虐められてみたいわね』

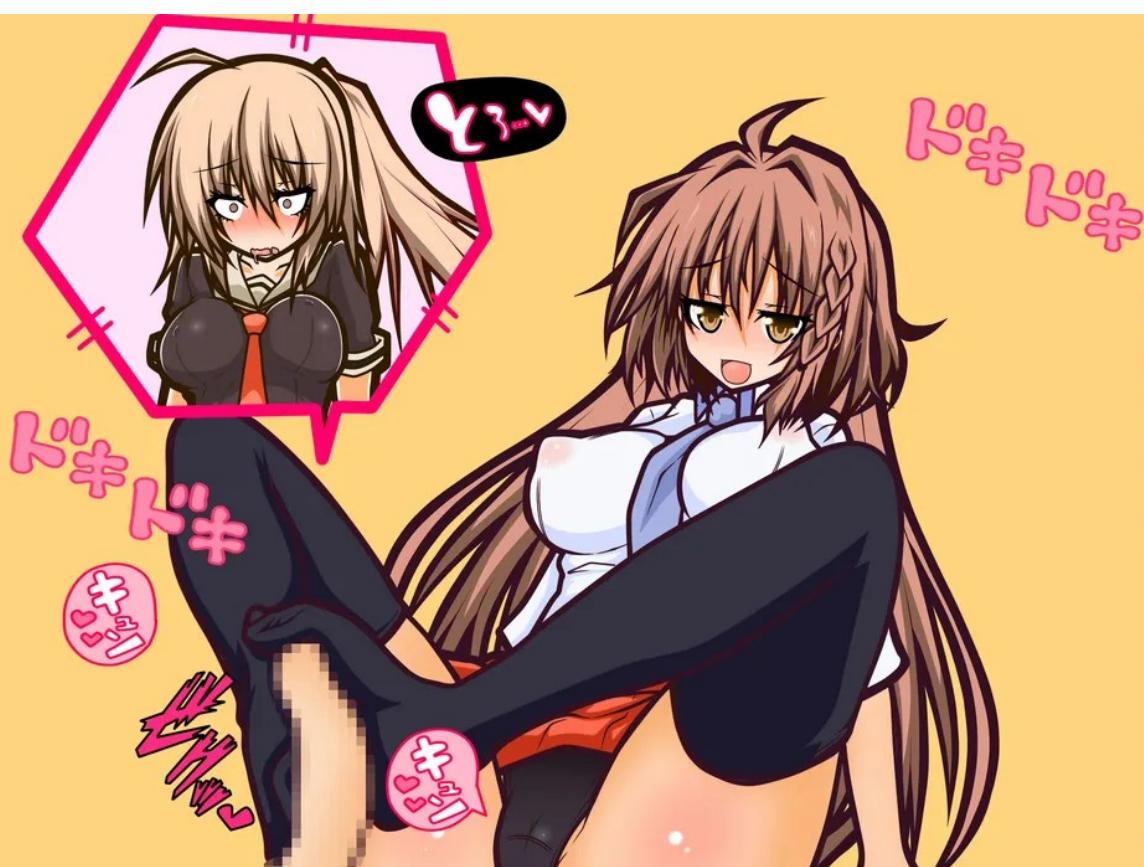
「ヒナが乱心した♥♥?」

『むう、なによ。私だって女の子なんだから、たまには責めるだけじゃなくて、責められてみたい時だってあるのよ?』

『それにお兄ちゃんだって、やれっばなしより、たまには責めてみたいでしょ?』

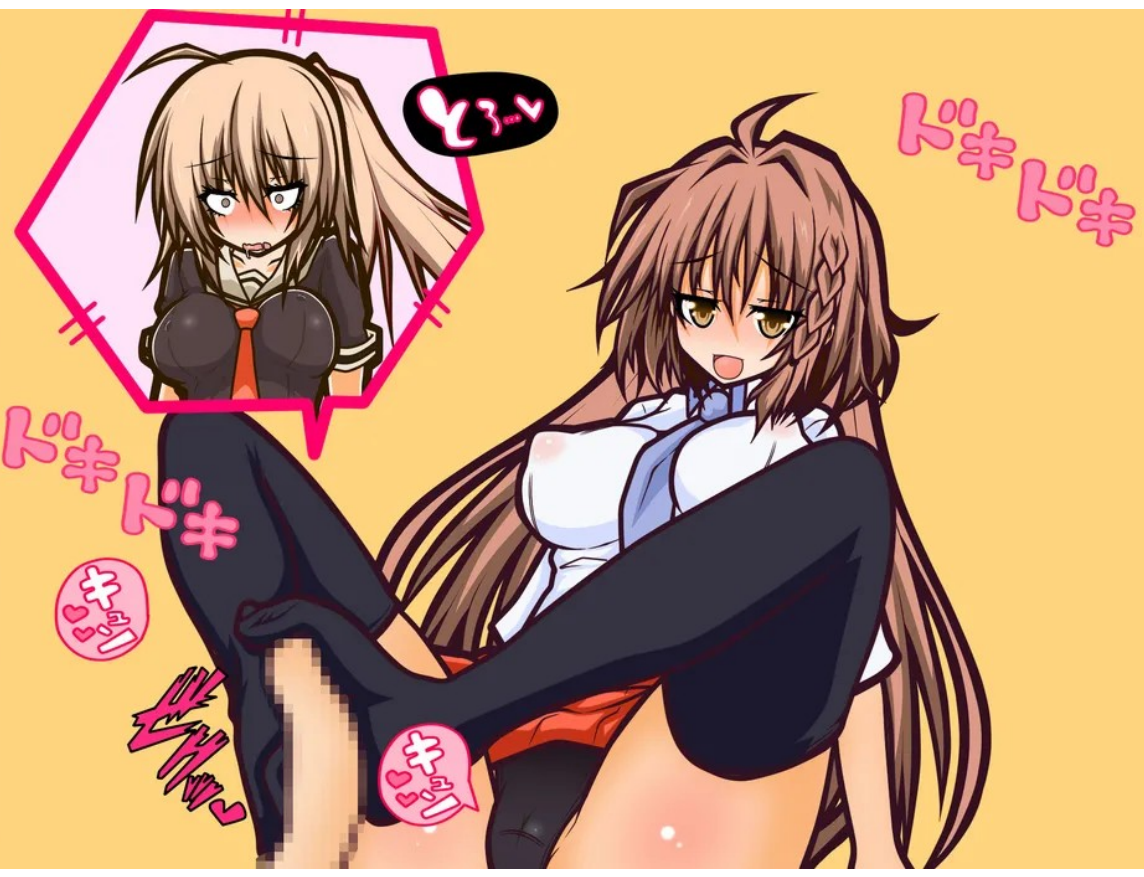
……と言うことで。

「おっねえ……？本当にこんなので気持ちいいの？足コキとか確かに定番だけど……現実だとどうなのかな？」
『で……どうなのかしら？』



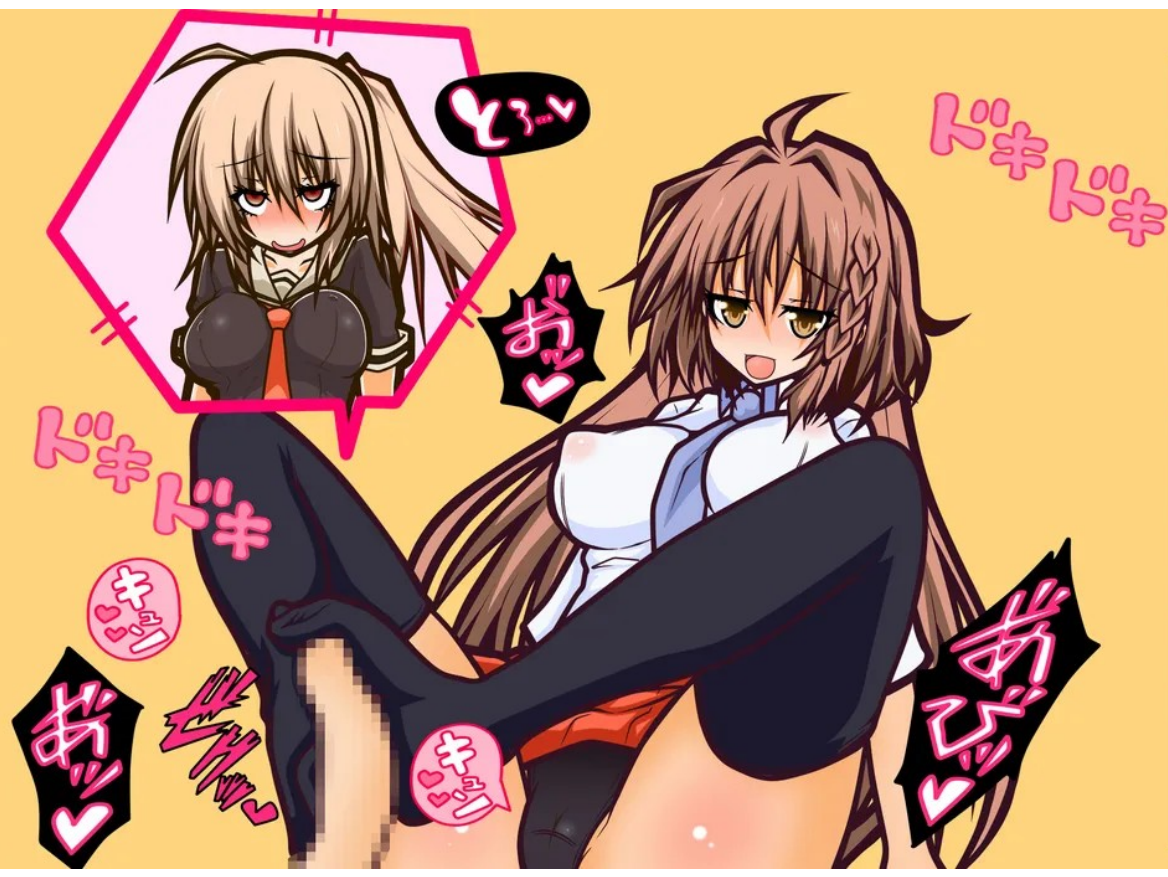
（あっ、どうしよう……これヤバイかも……♡♡♡すっごく屈辱的で……どうしよう、すっごく興奮してきちゃった）

(お兄ちゃんに足蹴にされて、メスチンポ
……すーい、チンチンに勃起しちゃってる
……♡♡♡)



「じゃ、じゃあ……動くからね」
『え、ちよっ♡』
(この子の準備が……♡♡♡)

「んひっ……♡♡♡？んひいゝゝ♡♡？
おっ、おちんぽ♡♡？んおお……」
「あれ……ヒナ？こんなので気持ちいい
の？まだちよって動いただけなの？」



「ふっ、こんにやの……せえんぜん……
ほっ♡♡？ほおお♡♡？きもちよくな
かあぁ……はへえええ」

「……ふうん。まだ気持ち良くないんだあ？じやあ、もって激しくしちゃっても大丈夫だよわ？」

「ほらほら、シゝコシゝコシゝコ。おちんちん頑張れゝゝ」



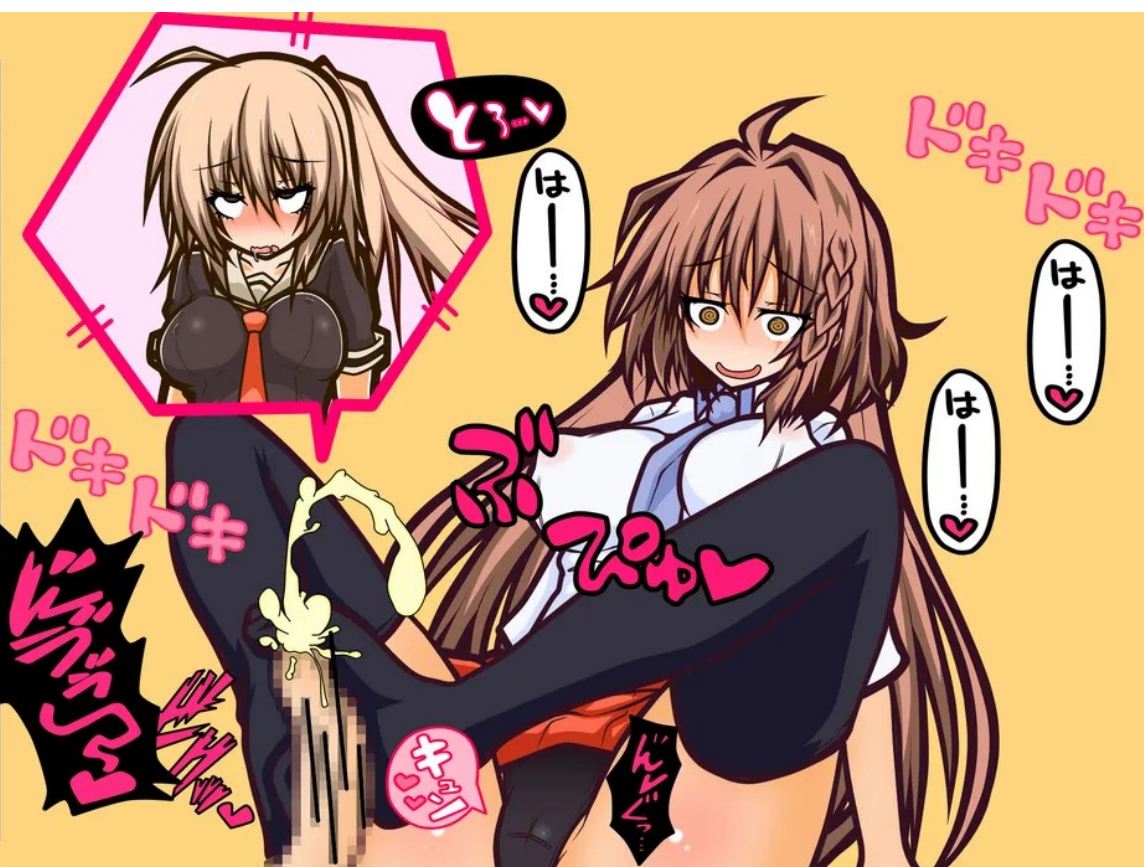
『ほっ、んほおおおお！？ちよっ、ちよっとまって！！？いくっ……！！いくうううう！！』

プビュウウウウウ♥♥♥
『いったあ……いっちゃったあ……女の子
なのに……メスチンポ、足でコキコキされ
ていっちゃったああ』



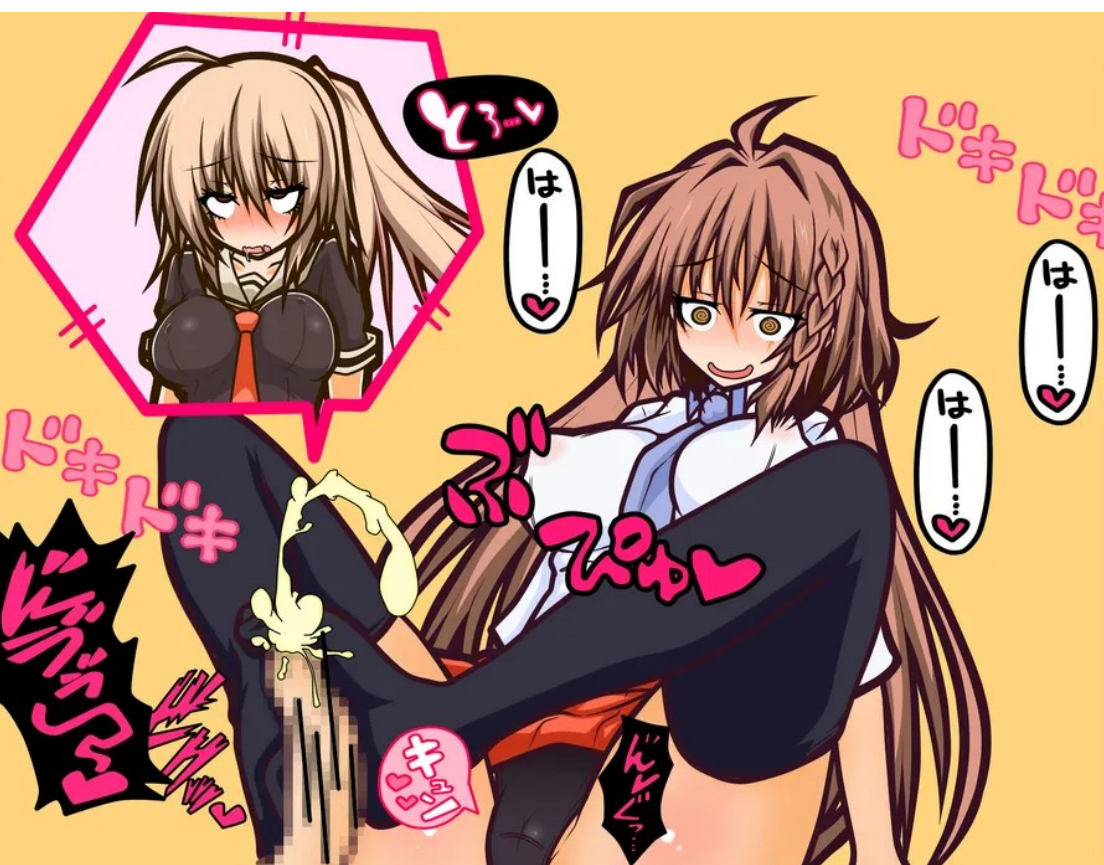
「可愛いよ……ヒナ。だから、もって、その情けないイキ顔見せてね？ほらほら、メスチンポ無様にまたいっちゃえ」

「ちよっちよつとまって、まだイッたはっ
か……♡♡♡んほおおおおお♡♡♡？」



「メヌチンポいったばっかにやの
にいい！！？ほひやおお！！？おちん
ぽ！！おちんぽで滅茶苦茶にされてりや
のにいいい」

『おちんぽ気持ちよくなりゆうろっ！！ん
おっ！！？おおお！！？だっだめええ、
こんなにやのだめええ』
『Qでさえメスチンポ生やした変態女なの
にいい！！おちんちんマソ調教されちゃ
うろっ！！』



『虐められて喜ぶ、お兄ちゃん専用のマソ
チンポにされちゃうがりやああ。そんな
の終わいいい！！女の子としておわ
りゆうろっ』

『ゆりゆりしてえええ！！もういきっぱに
にやっけてりゅかりやあ！おちんちんもうゆ
りゆしてえええ！！マソチンポ堕ち秘読み
だかりやああ』



『もう、私の無様なメソチンポゆりゆし
てえええ！！♡♡』

「だーめ。ほらほら、そのメスキントマが
空っぽになるまで、許してあげないから
ね。ほらっいっっちゃえ♥♥」

『んおおおお♥!だめっいくっ♥!い
ぐろろ♥!おちんちん、服従アクメ決め
ちやうろろ♥!♥!』



『んほおおおおおお♥!♥!』

翌日

ぶずぶずぶず……
『ただいまあ、おにいちゃん』

ゴゴゴゴゴ

「んぶろうろ♡♡んぶろうろ♡♡」
『あはは、スッゴい臭い。汗で愛液でよだれ
て、お腹にいれてあげた私のおちんちんミル
クで……ひっでいことになっちゃってるわ
る』

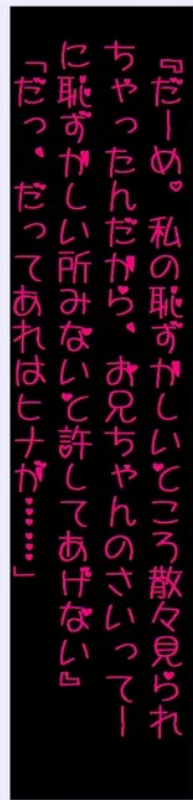


『そんなに、私の昔履いてたスッ水がよかつ
たのおお？それともお気に入りのパイプ？私
が学校行ってる間、ずうろって、それで楽し
んでたんだもんね？』

「んぶろろろ、ふろろろ♡♡♡？」
『あーごめんごめん、外してあげないてしゃべれないがぁ』



「ヒナアアア……もうおまんこゆりゆしてえええ……お腹のなかも限界なのおま……おトイしいかせてえ……」



『なにがいった？お兄ちゃん？ずぶろっつて』
「んおおおおお！？？アナルプラケ抜け……♡♡？らっらみえ……らっらみえええ♡♡でっでちやう♡♡」



「妹のプリプリおちんちんミルク浣腸、おしりからプビュプビュでちやうろっ」

『あはは、よかったねえお兄ちゃん。女の子
なのに、射精できるよろしく？おちんちんじゃ
なくて、ケツまんこからだけで』



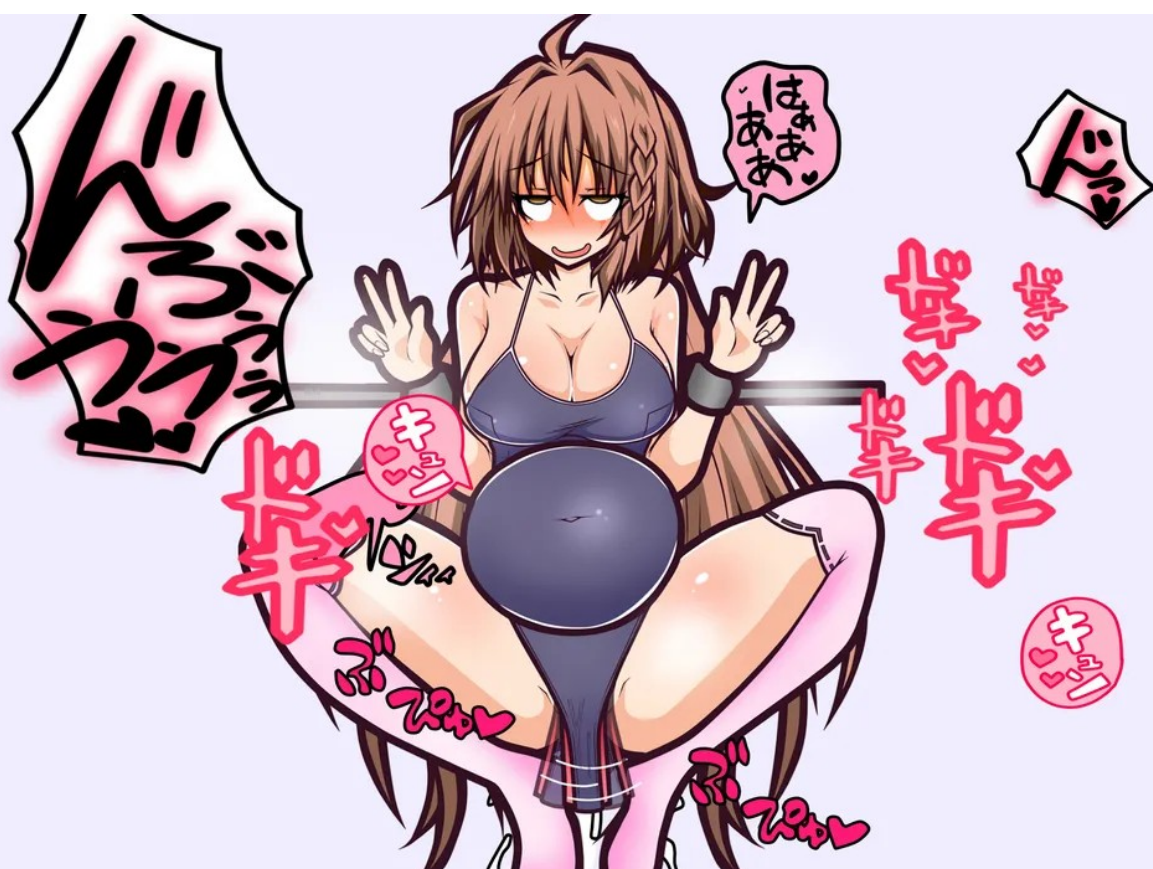
「うっらめ♡うっらめええ♡！そんなの最低
〜最低だからやああ♡！それにやの見られ
たら、女の子としても終わり♡！終わりだよ
おおおおおおお」

『大丈夫。私はお兄ちゃんがでんなさいってーなマソ女になっても大好きだから』



『だから安心して、そのおちんちんミルク。ケツまんこから射精してね?』

「いっしょくっ！ いっしょくっ！ ケツまんこ、射精いくろう！」



「妹におちんちんミルワ浣腸されて、それ無様に漏らしながらいくろうろ♡♡♡んおおおおおおおおおお♡♡」

『可愛かったよ。お兄ちゃん。これからもういっぱい愛してあげるからね』

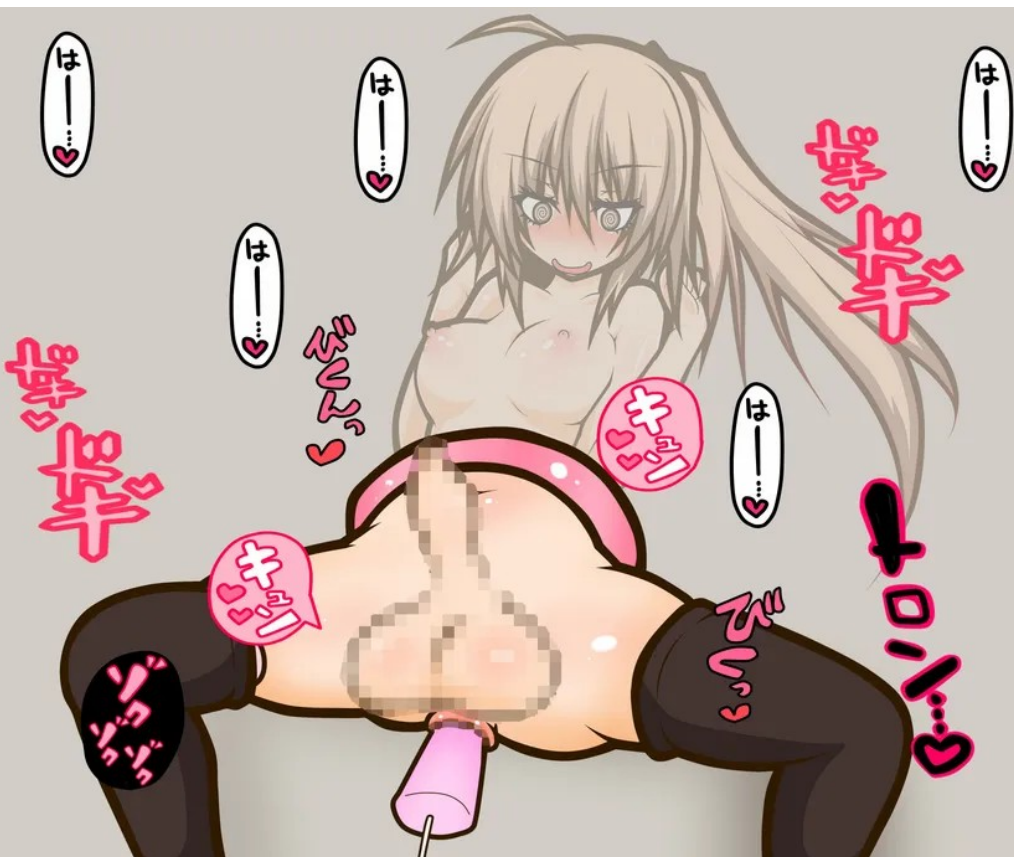


「はっ……はへ……でちやっう……でちやっ
うぬぬ」

エピソード

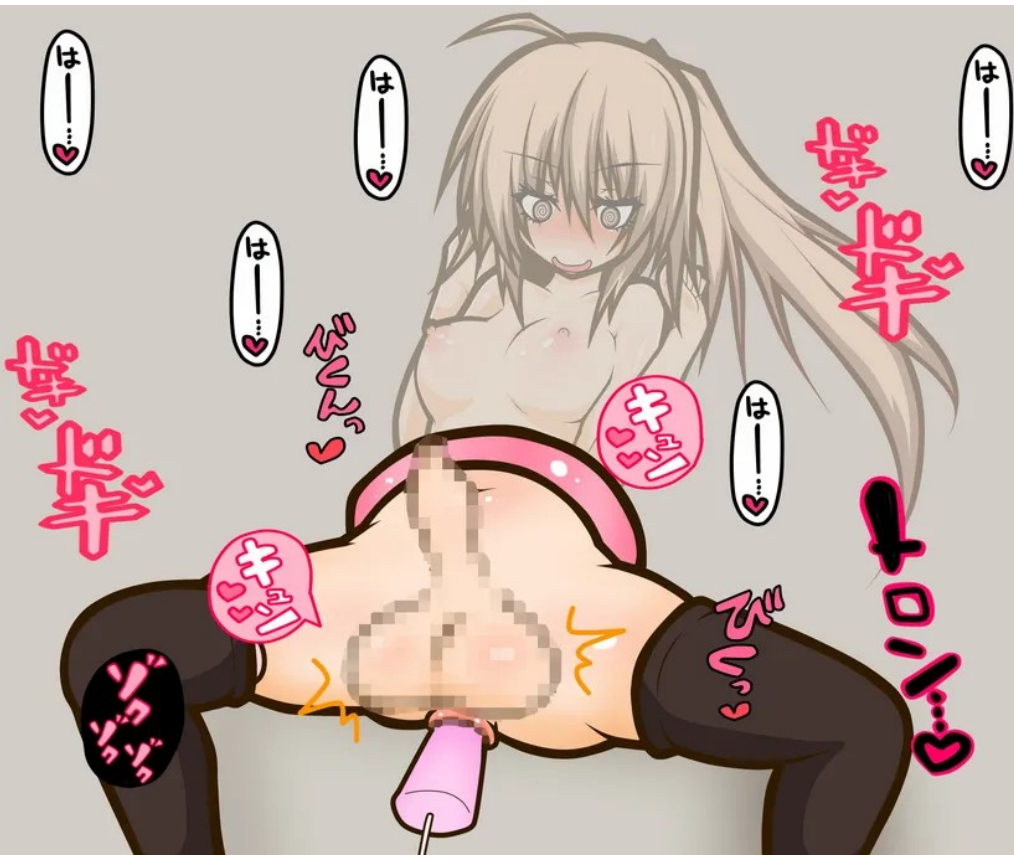
お兄ちゃんが女体化してから、色々変わった事があったわけですが……一番変わったのはこれです。

「じゃあ、今日も変態ふたなりマゾ妹の公開調教配信、はじめよう〜いつも通り顔出しはるだけで、壁から下半身だけってのもエロエロだよわ?」



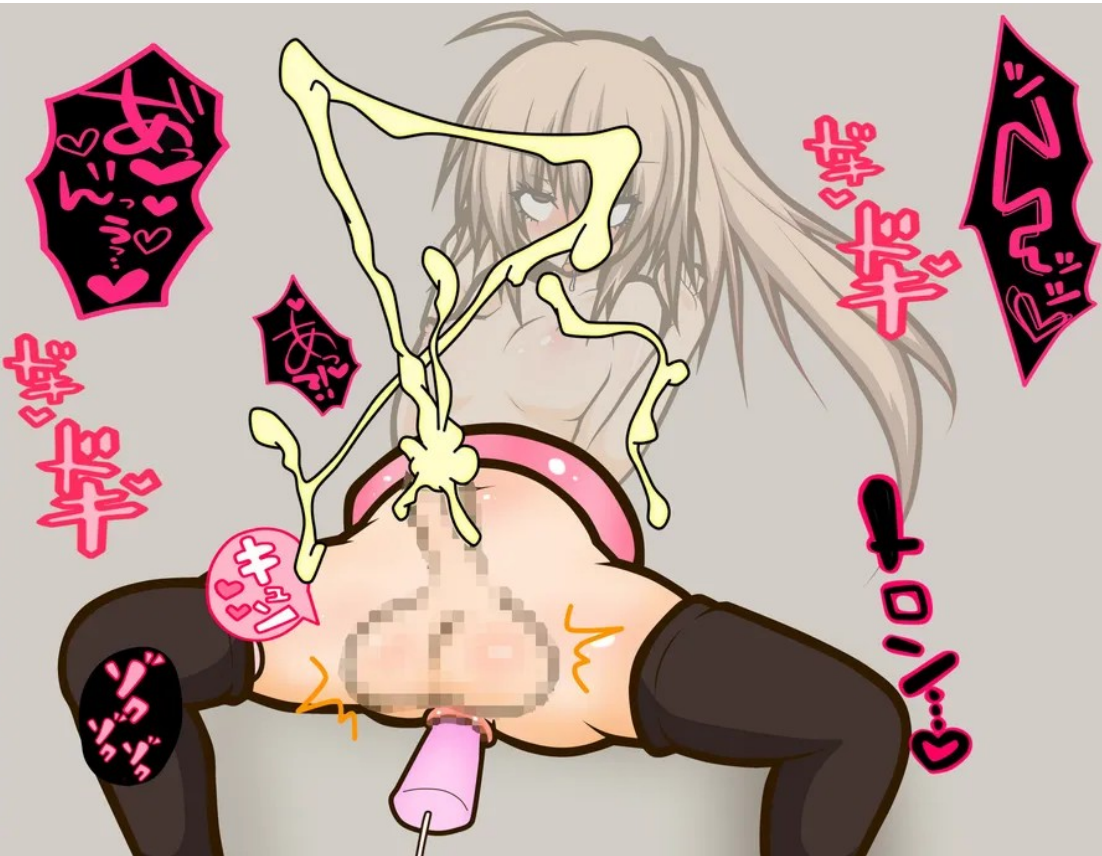
私かふたなりマゾにも目覚めてしまった事かもしれない。日替わりでお兄ちゃんを虐めたり、虐められたり.....楽しい日々を送っています。

「ほら、お腹の中も媚薬漬けにされちゃって爆発寸前のメスチンポでメスキンタマで挨拶して」



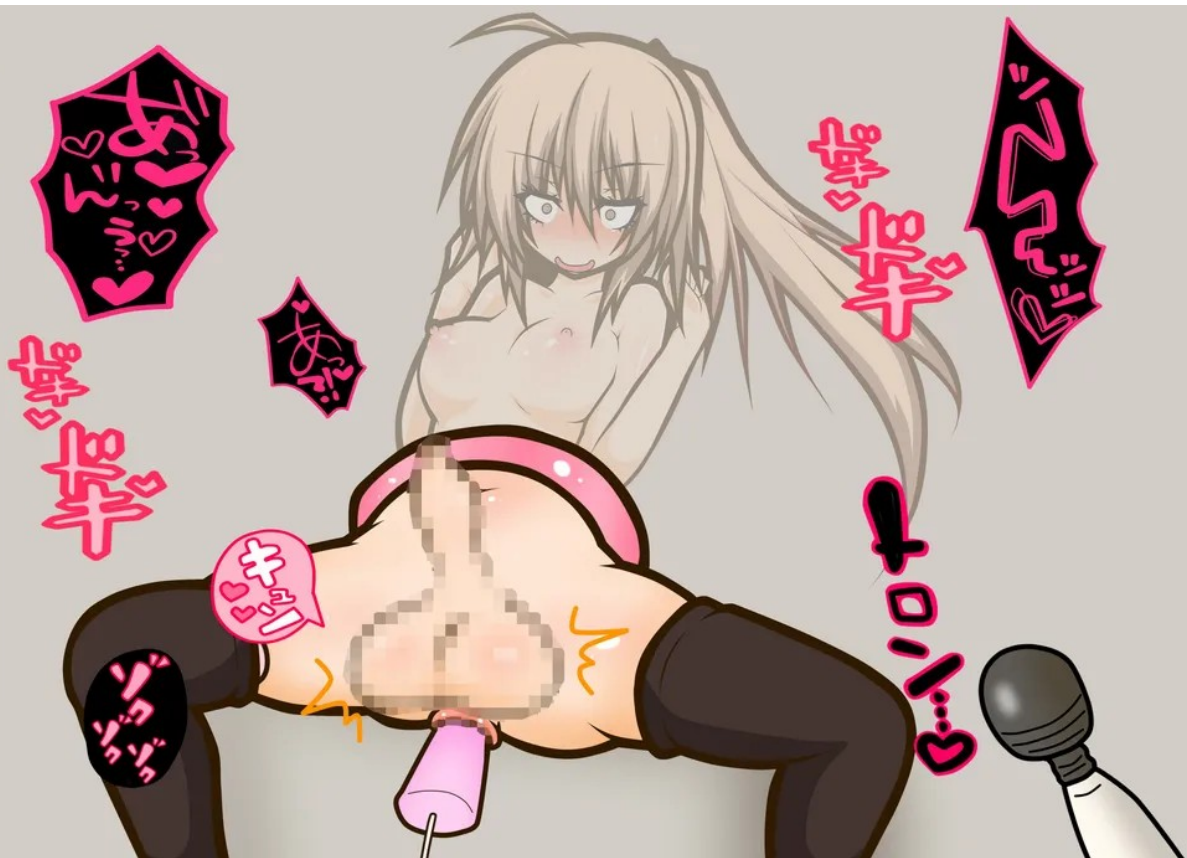
(んひいいい♡♡♡メスキンタマが見られながら、お兄ちゃんにペチペチたたかれて.....♡♡♡)

(んおおおおおおおおお！♡いくっ♡調教
済みずっしりメスキンタマ、簡単にワン
タッチでいけされりゅう♡♡んおおお)



「あはは、ホントにすぐイッチやう。タメ
チンポだなぁ〜ほらほら、そんなんじや
もたないよ？」
「今日はヒナがキンタマ責めにされても簡
単に射精しないようにキンタマ鍛えてあげ
るんだから」

「デニムでおちんちんとメスキータマ、
シエイクされて、1の分射精がまん出来る
ようになるまで続けるからね」
(そっそんな♥♥♥まっまって♥♥♥ぜったい
無理いたえられ)



「んおおおお!!??ほっ!!??ほ
おおおおおおおお!!??」
(キンタマアアア!!メスキータマぶりゅ
んぶりゅん震え……!!んおおおお!!)



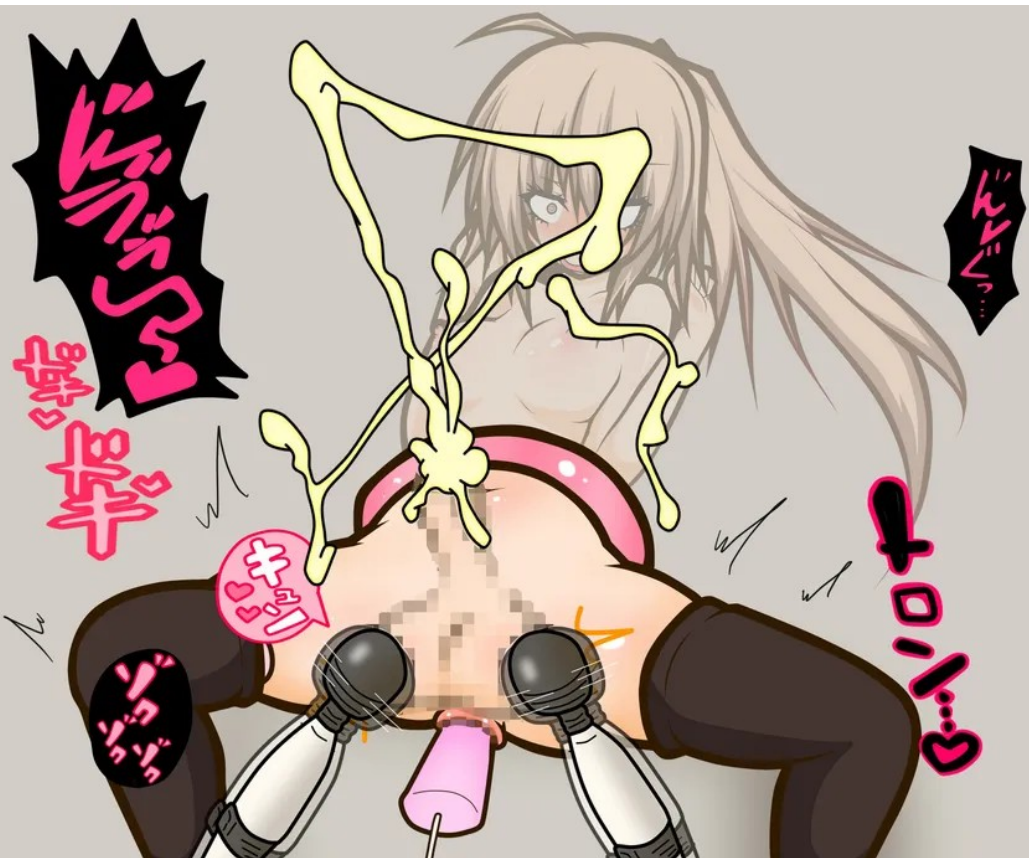
(いってりゅう!!メスキータマ、いぬの
しっぽみたいにプルプルン降りながら、
いってりゅう!!)

「半分もたっていないのに、さうもういっ
ちやったの？ ほらほら最初からやり直した
よ？」



（んひいいい！！いってりゆのに！！おちんちんミルワブピュピュしてりゆのに！！んおおおおおお！！？）

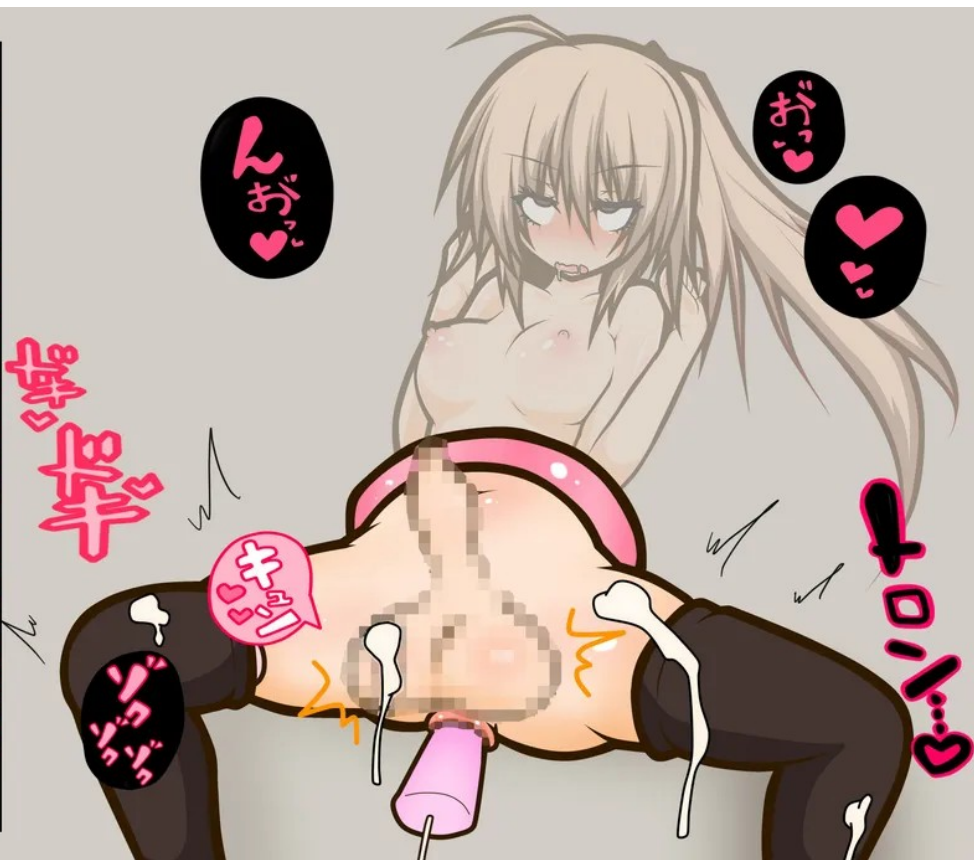
「さっ・1の分射精我慢できるまで・何時
間でもこのままだからね？」
（らめええ〜こわれりゅ……こわれ
りゅうちゅ♥♥メスチンポこわれりゅうちゅ）



（いきっぱなしだからやああ♥♥発情メスチ
ンポいきっぱなしだからやああ♥♥メスチ
ンポゆりゅしてえええ♥♥）

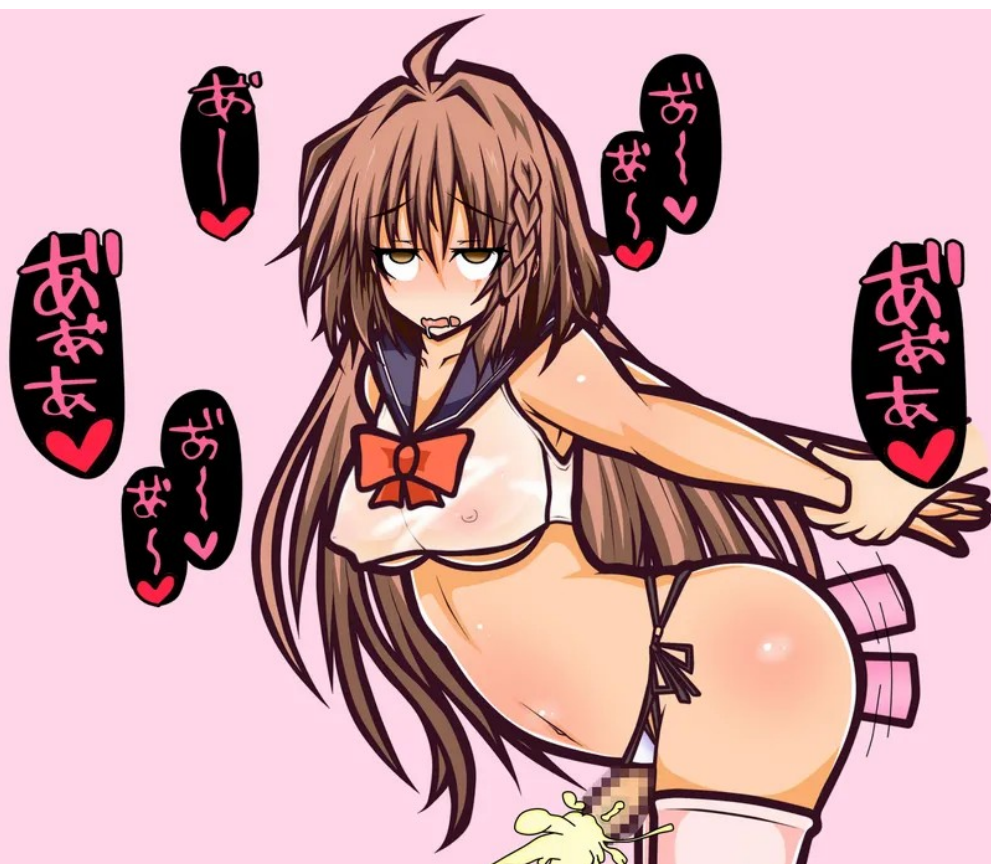
5時間後

「あーりやーりや……デニマの方が先にねをあげちゃったなあ。おちんちん、もうメスキンタマつついただけで射精するようになってしまったけど……」



「あしたからもうパンツはいただけで射精しちゃいそうだから女の子として完全に終わっちゃったかな？」
(さいてえ……こんなの……さいてえ……さいてえ……気持ちいいよ
おおおおおおおお)

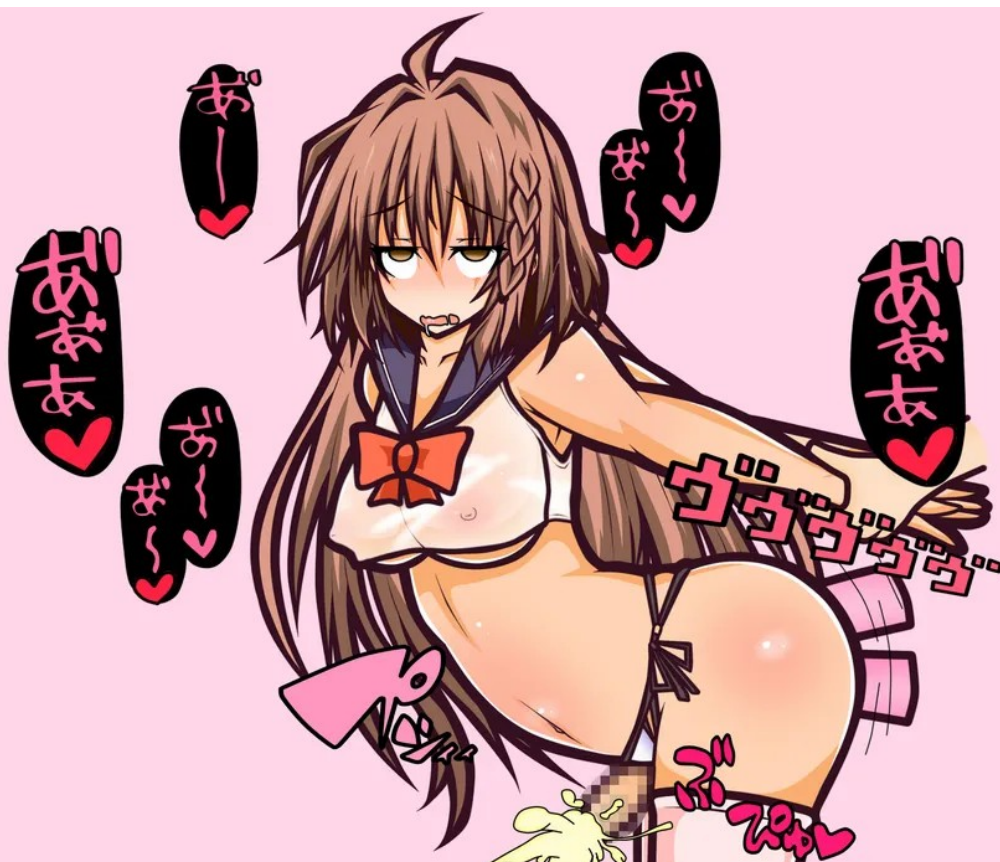
『お兄ちゃん……だいしゅき』
『ボクも大好きだよ』



ポツネタ
ショートストーリー
お兄ちゃん、女体化+ふたなり化エンド

「でりゅうろう！♡おちんちん吸われ
……♡♡??んほ
おおおおおおお♡」

『あはは、私だって5時間も頑張ったんだ
からお兄ちゃんは1の時間は頑張らない
て』



「ごめんによさいごめんにやさいごめん
によさい……♡♡おちんちん、もう許し
……おっほおおおおお♡♡」